| | |
|---|---|
| 事例No. | 2258 |
| 公表年度 | R4 |
| 団体の属性 | 一般市 |
| 団体名 | 東京都三鷹市 |

| | |
|---|---|
| 事例区分 | DX |

| | |
|---|---|
| タグ | ・EBPM<br>・ICT<br>・（行政改革）業務の効率化 |

| | |
|---|---|
| 事例種類 | DX |

事例内容・タイトル

BIツール（データ分析クラウド）の導入・利活用

出典

地方自治研究機構：自治体D X におけるデータ利活用及びEBPMに係る調査研究（令和３年度）

＜調査研究事業：自治体 DX におけるデータ利活用及び EBPM に係る調査研究（令和３年度）＞

〇自治体 DX

・データ利活用及び EBPM

取組団体：東京都三鷹市

取組内容：BI ツール(データ分析クラウド)の導入・利活用

## １．三鷹市の概要

人口：190,361 人（令和４年 10 月１日時点）

職員数：1,029 人（令和４年４月１日時点）

総面積：16.42 ㎢

三鷹市の位置図




出所：三鷹市ホームページ

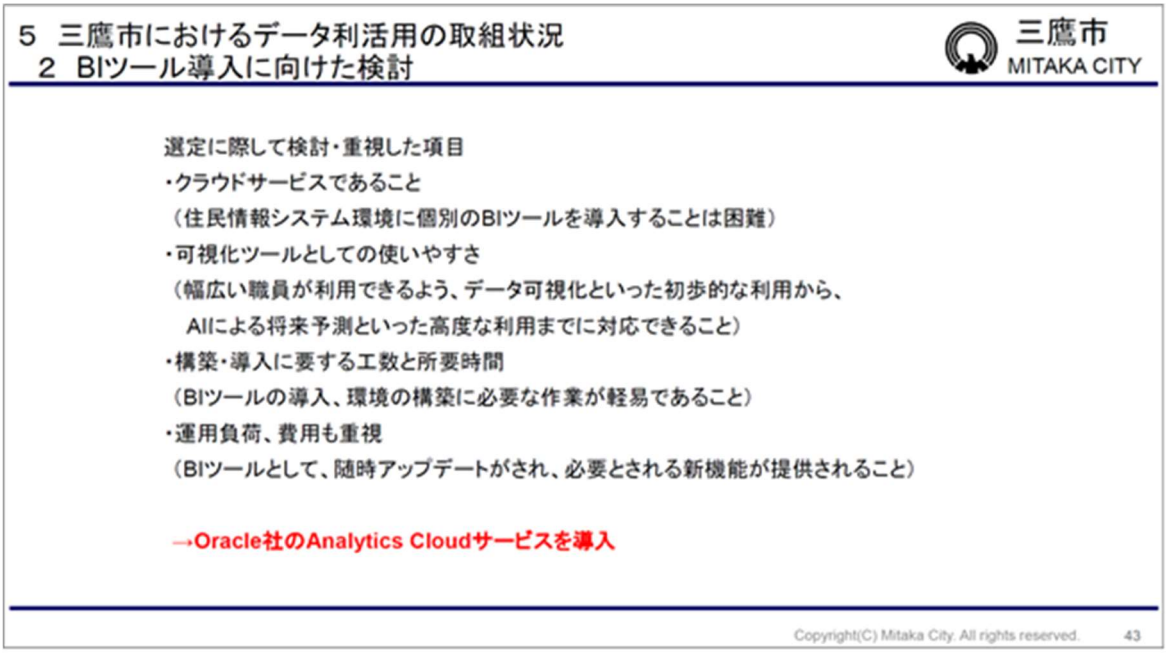
## ２．取組の背景・目的

・何の課題を解決しようとしたか？

三鷹市では令和２年３月に第４次三鷹市基本計画に基づく様々な情報化分野の取組について分野横断的に進めるために「みらいを創る三鷹デジタル社会ビジョン」を策定している。この計画の「行政データの戦略的な利活用 ～データ分析・利活用基盤の整備～」で、データ駆動型社会に向けたデータ利活用のための基盤構築を掲げている。

前市長時代からデータを活用した政策立案が重要視されていた。また、三鷹市では４年に１度の基本計画の改定のタイミングで「三鷹を考える論点データ集」を作成しデータに基づく議論を行うなど、データ利活用の土壌が従前からあった。近年の EBPM 推進の流れの中でも上記のようなデータ分析が重要視されており、部課長向け研修や係長向け研修などを実施している。そのような状況下で、既存システムとの関係性や、ツールとしての使い勝手の良さ、構築・導入に要

する工数と所要時間、費用などを踏まえ Oracle Autonomous Data Warehouse と Oracle Analytics Cloud を導入している。




出所：三鷹市「三鷹市におけるデータ利活用の取組について」（以下、同様）

## 3．取組の内容

・BI ツールを用いた分析事例

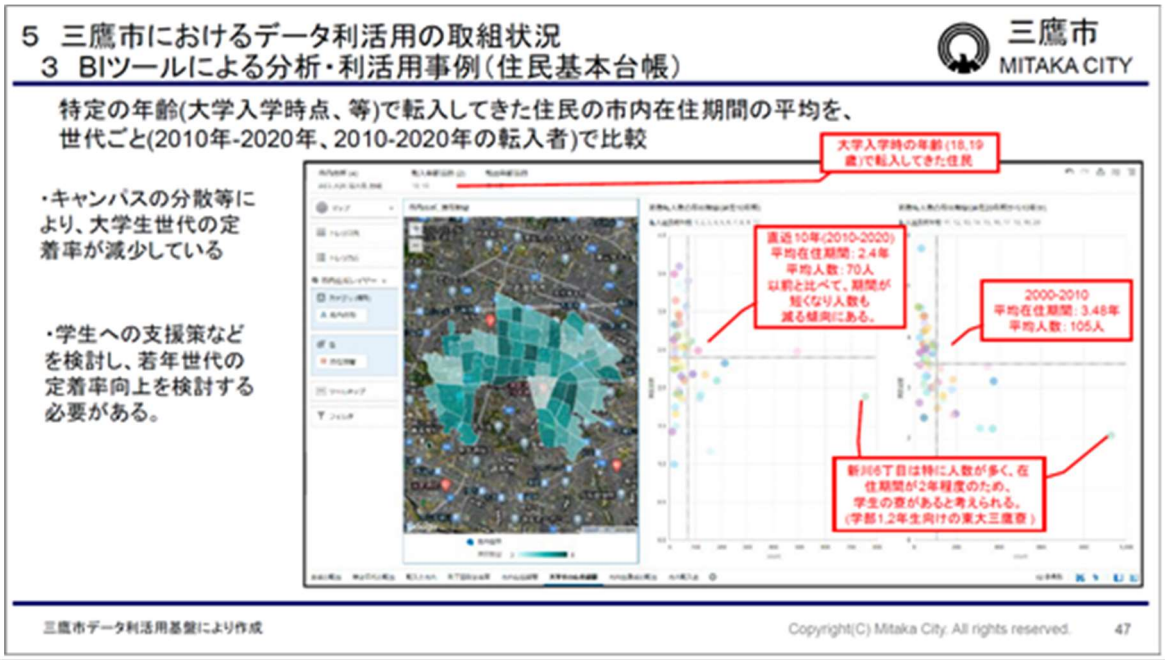
オラクルの BI ツールを用いた具体的な分析事例としては、以下などがある。

① ケースワーカーの担当可視化による負担平準化

障がい者支援の各ケースワーカーが担当する人数・重症度などを可視化して業務の適正化に向けたマッピングを行った取組である。仕事のできる人に業務負荷が集中する傾向にあるため、その状態を可視化することで業務負荷の平準化を促すための資料として作成した。

② 住民情報の可視化による地域課題の検討

三鷹市は人口流入が多い一方で総人口が大幅に増加しているわけではないため、転出が一定程度発生していると考えていた。BI ツールを用いて、人口の転入出状況を地図上で見える化し対応方策の検討を支援した。また、住民の市内定着率と人口密度を、町丁目別の住民定着率と人口密度の比較から可視化し、人口定着のための施策やターゲット層等の様々な仮説を立てて検討した。



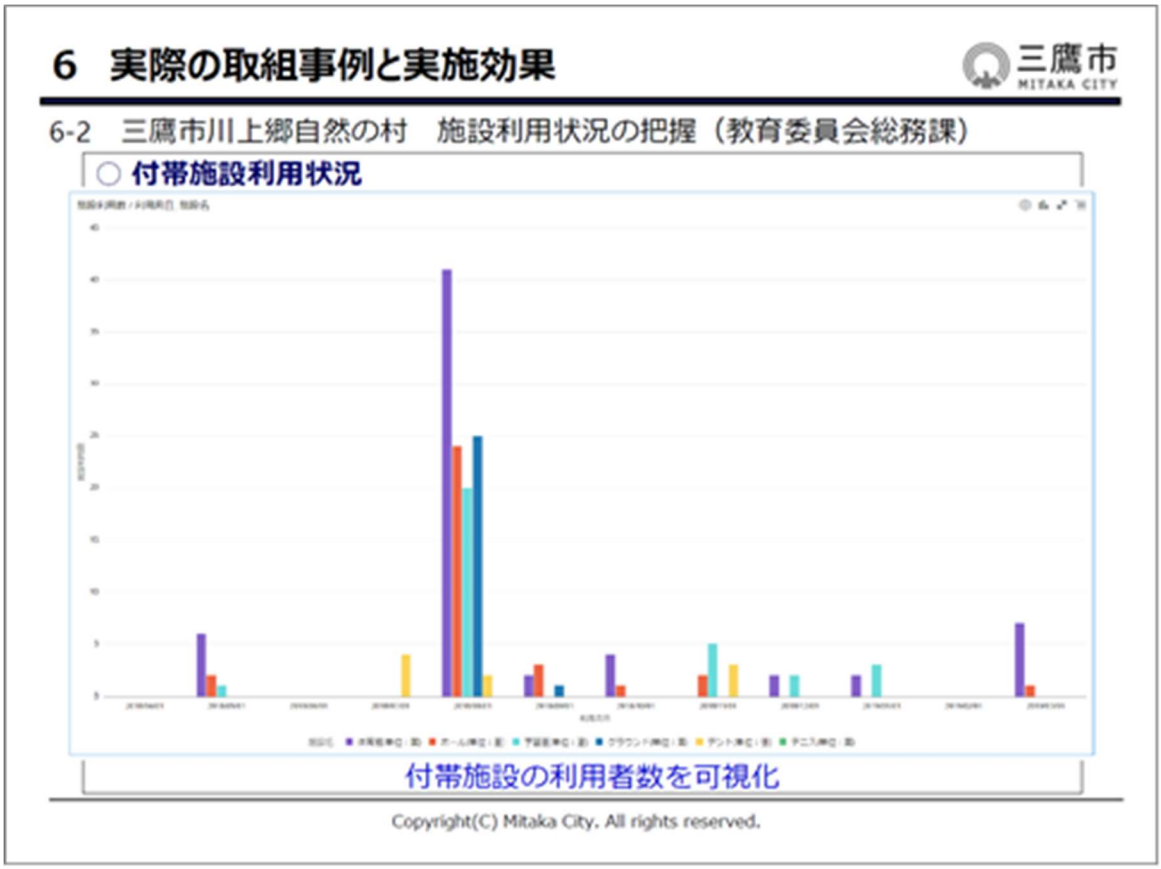




三鷹市は立川市、日野市と住民情報システムを共同利用している。３市のオープンデータの分析を行い、可視化を行った。

③　三鷹市川上郷自然の村 施設利用状況の把握

三鷹市では林間学校施設を長野県に保有しているが、冬の稼働率が悪い状況にあった。そのことを見える化した取組である。データで見える化した結果は、職員が感じている内容と概ね一致しており、検討のための資料として、実感を事実として確認することができた。可視化した内容を踏まえて対応方策の検討を行った。




④　保育園の待機児童及び通園状況の把握

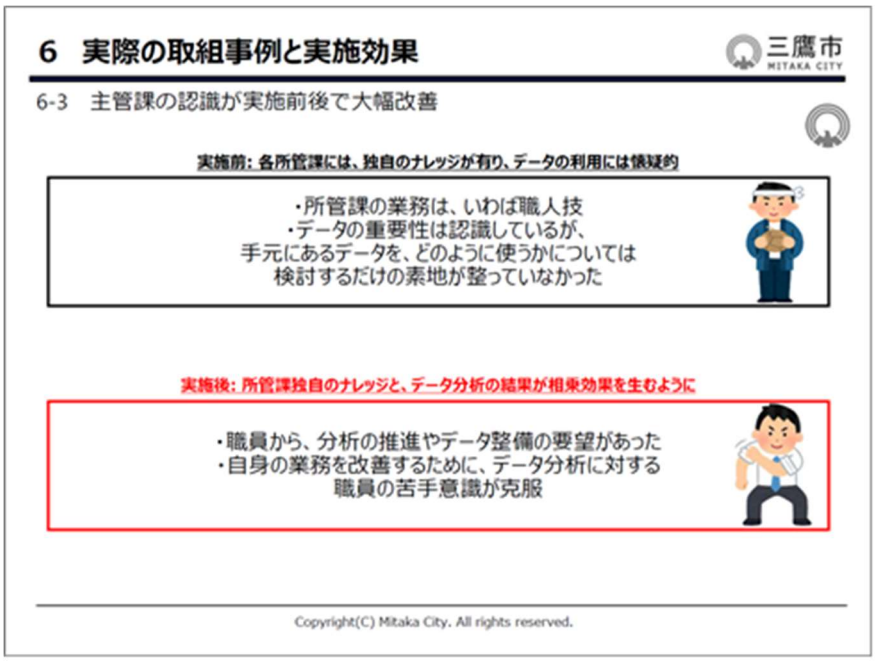
保育施設の定員のボリュームや待機児童数の可視化にも取り組んでいる。可視化することで、需要分散・新規保育施設の建設・既存保育施設の定員増などのうち、どの取組が望ましいかを検討している。また、下図のように保護者住所と通園先を地図上にプロットして利用者の傾向分析にも取り組んでいる。



## ４．成果・課題

・成果

BI ツールを用いた分析による成果としては以下がある。




また、以下のようなメリットも感じられた。

① 地図（特に、オラクルの場合は“Google マップ”と連携）が利用でき、説得力が増す。

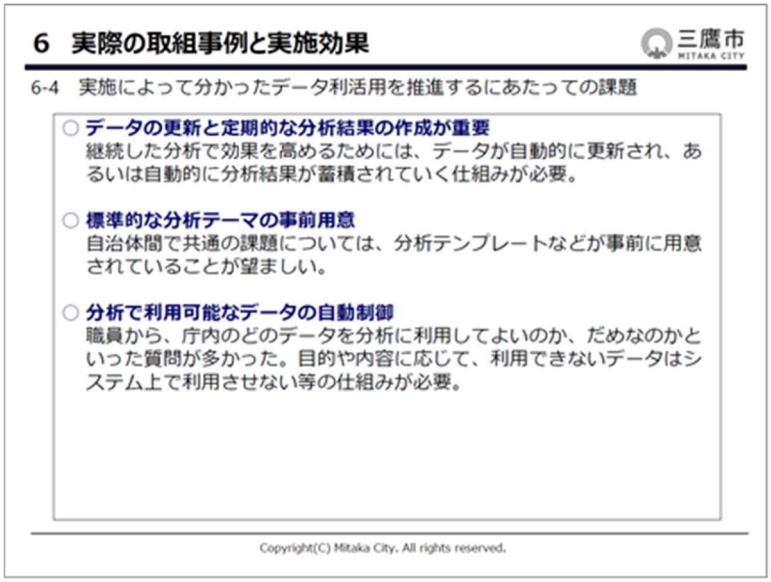
② 属性別の状況など、複数の切り口で時間を掛けずに簡単に可視化できる。

③ データ分析対象期間を、任意の期間（日・曜日・月・期・年単位等）に設定できる。

BI ツールがなくても、所管課は大まかな課題感や傾向は把握できているかもしれないが、BI ツールにより可視化することで、より具体的な対策の検討につなげられる可能性がある。

・課題

データ利活用推進のための課題としては以下を認識している。




また、以下のような課題もある。

① 現在は特定の部署が中心となっている。全庁的な底上げを図るため人材育成を行いつつ、担当課が課題と仮説を立てて、可視化することが重要である。

② データ利活用が目的にならないよう、課題解決を主とした内容にする必要がある。

## 5．今後に向けて

三鷹市は「みらいを創る三鷹デジタル社会ビジョン」に基づき、デジタル化を進めつつ、「誰一人取り残さないまちづくり」に向けて、参加と協働の拠点である「マチコエ」等にて地域住民の声を反映しながら、データの利活用を進めることで、まちづくりに活かしていく。

【参考】

三鷹市ホームページ（みらいを創る三鷹デジタル社会ビジョン）
https://www.city.mitaka.lg.jp/c_service/031/031778.html
三鷹市ホームページ（三鷹を考える論点データ集）
https://www.city.mitaka.lg.jp/c_categories/index05001004.html
三鷹市、オラクルのデータ分析クラウドを活用し地域社会のニーズに対応する政策企画・立案を強化
https://www.oracle.com/jp/corporate/pressrelease/jp20191010.html
三鷹市提供資料